

029 村山町区有文書と目録作成について

1 千曲川右岸にある村山村の居村（集落）は、東を流れる百々川にはさまれた囲い堤防のなかにある。ために、水災害の常習地帯として、村山村の歴史は「鬪水の歴史」（「村山区記録 壺」）といわれるほどであった。度重なる洪水と鬪い、共生しつつ、村の輝かしい歴史をつくりあげて今に至っている。

2 当町区有文書には、区有文書のほか共有地文書がある。区民が生きてきた歴史は、これらの史料によって共有割替地の歴史とともに明らかにされるであろう。

ここでは、その史料を、『029 村山町区有文書目録』として作成する。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「029」（29 番目）に位置付け、史料番号は「029 - A - I - 1」から開始し、整理ラベルを貼付した。

3 村山村では、「村山区記録 壺」を昭和 20 年 3 月に作成している。そのなかの「村明細書（帳）」によれば、村山村の家数は寛文 11（1671）年 45 軒、村高 288 石の村であった。その後、軒数は宝暦 9（1759）年 111 軒、天保 9（1838）年 141 軒、明治 8（1875）年 132 軒、昭和 34（1959）年 176 戸と記録されている。「天保郷帳」・「旧高田領」ともに 386 石余、天保 8 年までは皆畑地で、その後若干の水田開発がすすんだという。

とはいえ、当文書目録中には、村明細帳や宗門帳は一点も存在しない。歴史の中で、何らかの理由で区有文書から外れているが、村内いづこかに保管されているものと思われる。これらの史料ともどもに村の宝物であることに違いがあろうはずがない。

ここに登場する村山町区域の人々は、生きて育った故郷、地域の生きざまを累々として記録し、史料として遺しいまに伝えている。

どの史料をみても先人の生きざまを現代に伝える貴重なものとなっている。

4 史料の死蔵（活用しない）は、村の先達がせっかく創り上げてきた苦闘と栄光の歴史を、埋もれさせてしまうことにもなる。

本史料目録が、村山町区民をはじめ須坂市民ほか多くの地域史研究者によって活用され、先人の歴史に学ぶ契機になることを願ってやまない。とともに、当区有文書の史料調査・研究を深めつつ、新たな村山区民の歴史を発掘し、区民の歴史を叙述・編さんして、子々孫々に伝えられることを大いに期待したい。

5 『村山町区有文書目録』は、史料内容の特徴を生かして、つぎのように分類して史料目録を作成した。総史料点数は 1000 点余にのぼっている。

① 村山町区有文書

分類項目	史料番号	史料点数
A - I 江戸時代	191	212
A - II 明治時代以降	246	250

② 村山町共有地文書

分類項目	史料番号	史料点数
------	------	------

B - I 江戸・明治時代	125	125
B - II 大正時代以降	477	477
B - III 巻物類	23	23
①+②総計	1062	1087

6 史料目録の作成にあたっては、史料の現状・存在形態を尊重しつつ史料閲覧者の便宜も考慮して、つぎのようにした。

- (1) 史料名は原則として史料中に記載された表題を記載したが、無表題史料などには、つぎのように () をもちいて仮表題を作成し掲げた。

(御請け証文) (荒地起返し絵図)

- (2) 「記」、「覚」のみで内容未記載の史料については、つぎのように () 内に内容説明を記載したものもある。

記 (祭典関係領収書) 覚 (土地借用書)

- (3) 史料形態については、つぎのように略記した。

横 (横帳)、 横半 (横半帳)、 縦 (縦帳)、 紙 (一紙)、
封 (封書)、 冊 (冊子)、 綴 (ジョイント含む)、 括、 など

7 本史料目録は、村山町のご理解・ご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。

丸山文雄 小林謙三 宮澤慶男 井上光由

(編さん担当：青木廣安・丸山文雄)

2009 年 12 月 15 日

須坂市誌編さん室